

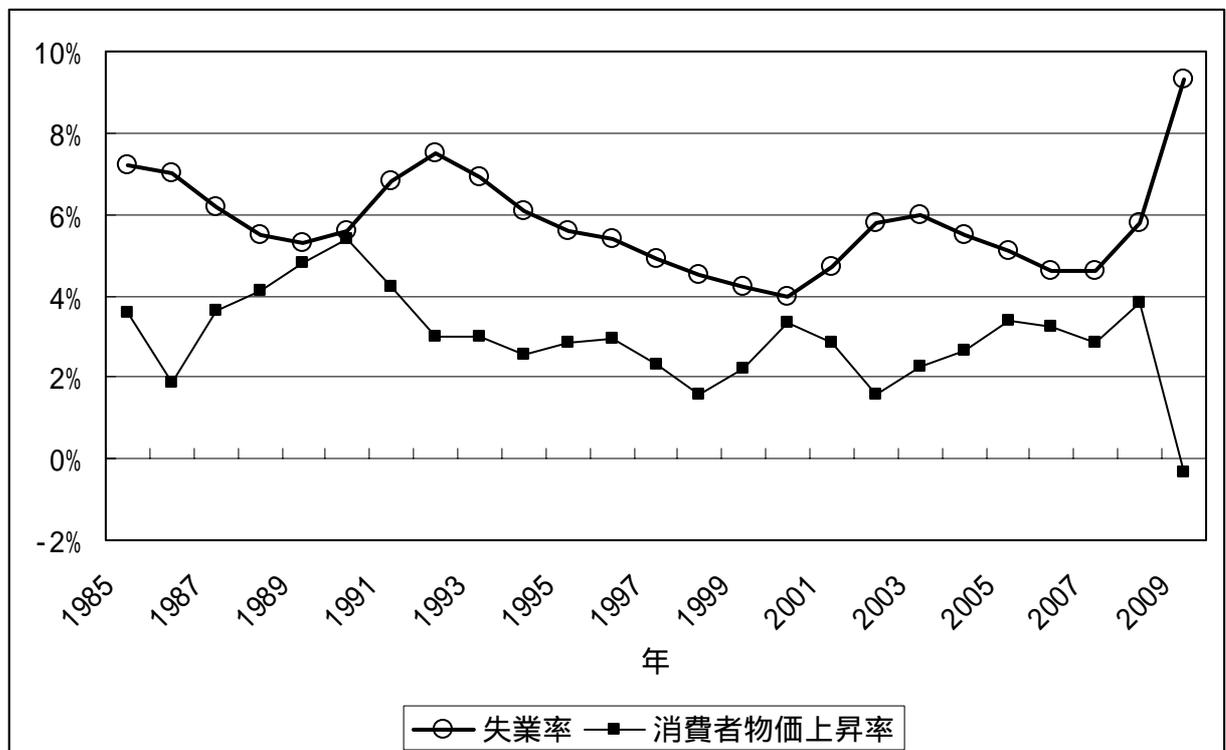
平成 23 年度 福井県立大学大学院
経済・経営学研究科博士前期課程
入学者選抜試験問題(第 1 次)
専門科目
経済理論・経営理論分野

以下の問 1 と問 2 から 1 問 を選んで解答しなさい。

問 1 (経済理論)

失業率とインフレ率の関係を示す曲線をフィリップス曲線と呼ぶ。フィリップス曲線について以下の問に答えよ。

- (1) 短期的にはフィリップス曲線は右下がりになるとされる。その理由を説明せよ。
- (2) 長期的には失業率が N A I R U (インフレを加速しない失業率) を超えて低下すると、インフレ率が累積的に上昇する。その結果、長期的なフィリップス曲線は垂直になるとされる。その理由を説明せよ。
- (3) 下図はアメリカの失業率と消費者物価上昇率の推移を示したものである (1985 年 - 2009 年) 。アメリカの N A I R U は 6.0% もしくは 6.5% 程度であるとされていた。しかし、1990 年代以降は失業率が 5% 未満となっても、インフレは必ずしも累積的に上昇していない。その理由を理論的に説明せよ。



問 2 (経営理論)

企業経営において、市場における競争をどのようにとらえるかは、どれだけたしかな成果を生み出せるかにつながる大事な問題である。

ただここで一口に競争といっても、経営の世界においては抽象的な存在ではない。それは実体的な内容をもったものであり、何より具体的な成果に向けての対応をもとめられるものである。さらに、その具体的な成果に向けた対応は実のところむずかしい。これは、競争の態様も時代や環境に応じて変わってくるからである。そこで今日の競争をとらえるには、グローバル化の中で何がどのように変わってきているか、どのようなことが特徴点になるかまずみておく必要がある。また、競争状況に対処する具体的な方策を打ち出すには、M・ポーターの5F(ファイブ・フォース)図式も参考になるかも知れない。これは競争圧力や競争の程度を規定する要因として、新規参入業者、代替品、売り手の競争優位性、買い手の競争優位性、競合他社に注目せよ、と教える図式である。

このようなことも参考にし、今日の競争状況においては何が特徴となるか。競争をとらえる上で考慮すべき要因とは何か。市場競争から抜け出て優位な位置に立つには、どのようなことが必要になるか、自らの考えを述べよ。